**現代社会において、我々を脅かす脅威の質が変わってきている。もはやそれは国同士の戦争に限られない。環境破壊や国際テロ、感染症、難民流出、食糧不足などといった脅威は国境を越え人間に直説影響を与えるようになってきている。**

**「人間」の安全保障**

**これらに対応するには国を単位とした従来の安全保障では事足りない。１００年後も安心して暮らせる社会のために、「人間」を単位とした安全保障へと転換していかなくてはならない。我々はこの「人間の安全保障」における安全を、「国民が人間らしい生活を送るにあたって障害となるすべての脅威からの安全」として定義している。そこにはもちろん武力からの安全に限られず、環境や食糧、雇用や人間の尊厳などの確保も含まれる。国ありきの安全保障から国民ありきの安全保障へ。国益よりも国民の安全。それは原子力にも領土問題の解決にも当てはまる結論である。我々はどんな政策決定においてもこの視点を忘れず、国民の安全保障を第一に考えていく。**

**そして人間の安全保障が国内で成熟したとき今度は日本がそれを世界へと発信していく番だ。しかもその担い手の中心は国ではなく国民自身である。安全保障の客体にしかすぎなかった国民が今度は自ら主体となって他国民を救済する。市民レベルでの国際貢献は行き届いたケアを可能とし、その交流を通し両国民のすれ違いを解消するものともなりえる。世界へ飛び出し国際貢献を果たす活動が自らの自己実現にもつながる。人間の安全保障の輪は国を越え、世界へと広がっていく。国民自身が安全保障の主体となる。これもまた我々の考える人間の安全保障の一部である。国ではなく人間を単位として考えること。それは国民皆が幸せな新しい時代を迎えるにあたって最も重要な前提だ。**

　**日本のＮＰＯは総じて内向きで小規模。世界へと飛び出して活動するような組織を作るためにはその資金力不足が障害となります。**

**＜市民による国際貢献の推進。主体となる力強いＮＰＯ、社会的企業を作ります。＞**

1. **国際志向の組織への助成金制度を新たに作ります。**
2. **社会的企業を目指す社会起業家を支援する制度を新たに作ります。**

**以上の政策から我々は国際貢献を志向する団体を応援し、市民を主体とした人間の安全保障を世界へと発信していきます。市民を主体としたサービスはより過不足のない供給を実現し、受入国の満足度が向上します。また市民間の交流は互いの誤解や偏見を解消し紛争の予防にも役立ちます。ハードな安全保障からソフトな安全保障へ。冷たい安全保障から温かい安全保障へ。軍隊のない日本だからこそ目指すべき道です。**

**まずは国際貢献を果たすＮＰＯへの助成金をしっかり出すこと。それから継続して安定した活動を行うにはやはり企業化が現実的。我々はそのプロセスも支援します。国際舞台の主役もまた市民なのです。**